

お茶の歴史&文化

茶樹の原産地は、中国の雲南省あたりの山岳部。そこから世界に広まったとされている。

緑茶



平安時代、800年代に最澄や空海など唐への留学僧らがお茶を日本へ持ち帰ったとされているが、日本原産の自生茶樹があったという説もある。初期のころは、儀式や行事にのみ用いられる大変貴重な飲み物だった。鎌倉時代初期の1214年に臨

済宗の開祖・栄西が『喫茶養生記』を執筆し、日本の茶文化に大きく貢献。その後、千利休が茶道を完成したが、日常的に一般庶民がお茶を飲むようになったのは江戸時代になってからである。

中国茶



中国では紀元前1世紀ごろ、ねぎやしょうがなどと合わせてお吸い物として飲まれていたといわれている。一般に普及したのは唐の時代、8世紀後半に陸羽(りくう)が『茶経(ちゃきょう)』を執筆したころ。当初は茶葉を固めた状態の「固形茶」

をほぐし、鍋で煮出して飲まれていた。さらに時代を経てさまざまなお茶が生まれてゆき、14～17世紀の明の時代には一般庶民に広がった。17世紀以降の清の時代には、中国茶葉や茶具はほぼ完成し、中国の茶文化は最盛期を迎えた。

紅茶



16世紀、ポルトガル人がマカオや日本で『茶の湯文化』に触れ、その後、オランダの東インド会社が緑茶を伝えたことにより、ヨーロッパでのお茶の歴史が始まった。1674年に英蘭戦争に勝利したイギリスが中国貿易で優位に立ち、1720年に輸入

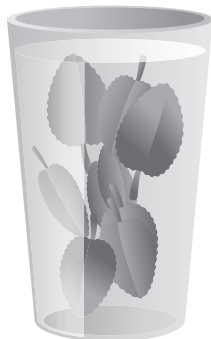
独占権を得て半発酵茶を輸入し始めたのが、紅茶の原型となった。その後、インドのアッサム地方で発見された自生茶樹をインドやセイロンの茶園で栽培させ、紅茶文化が世界へ広まった。

世界各地のユニークなお茶の飲み方

国や地域によって、お茶はさまざまな飲み方をされている。たとえば、以下のようなユニークな飲み方がある。

モロッコの『ミントティー』

グラスに氷砂糖と生のミント(薄荷(はっか))の葉を入れ、そこに中国産の緑茶をそそぐ。



ロシアンティー

紅茶にミルクは入れず、角砂糖やジャムを口に入れてから紅茶を飲む。



チベットの『バター茶』

お茶に塩、バター、ミルクを混ぜて飲む。山岳地帯に住む人々の栄養補給源。

